朝日

高齢化進む伊豆半島

一写一筆

～静岡の今

伊豆半島の高齢化が進んでいる。想像はできたが、数字で示されると、うなずくしかない。

県によると今年4月1日時点の県内高齢化率（人口に占める65歳以上の割合）は27・6％で、過去最高を更新した。

市町別の最高は西伊豆町の46・8％。地域住民の半数近くが65歳以上のお年寄りになってしまった。近隣の南伊豆町、松崎町、東伊豆町も40％を超え、河津町（39・4％）、下田市（38・9％）も40％に迫る。県全体の高齢化が進む中で、伊豆半島で暮らす人たちの高齢化が、改めて浮き彫りになった。

この伊豆半島南部1市5町の中核、下田市では12日に市長選があった。観光振興、人口減少対策と並んで「新庁舎建設」が大きな争点だった。

現在の市庁舎は津波浸水区域にあり、耐震基準も満たしていない。甚大な災害時に市庁舎機能がいかに大切か、東日本大震災や熊本地震が示している。津波におびえ、倒壊の恐れもある庁舎では、平時の善政も期待できない。

伊豆半島の振興は、長年県政の課題だった。県は一昨年、副知事を3人に増やし、昨年からは1人を「伊豆半島担当」にした。その効果もあって行政の仕組みや公務員の意識改革は進んでいるが、人口構成など地域社会の構造基盤を変えるには時間がかかる。

江戸時代末期、下田は「日本開国」の舞台となった。その輝かしい歴史を記念して、毎年5月に恒例の「黒船祭」が行われる。はじけるような「よさこい」のエネルギーを、今年も沿道の高齢者たちが、まぶしそうに見つめていた。

（前静岡県監査委員・富永久雄）

「開国よさこい」――黒船祭のイベントは参加者と観光客でにぎわった＝下田市、全日写連竹之内範明さん撮影